

内モンゴル自治区における牧畜地域の民族教育の現状 — 民族学生の学校選択に関する一考察 —

ムンクバト N.B.

キーワード：少数民族教育、牧畜地域教育、モンゴル族学生、学校選択

1. はじめに

本稿の目的は、内モンゴル自治区（以下内モンゴル）におけるモンゴル民族の教育現状を考察するものである。特に牧畜地域の実態を、ウジムチン地域の学校事例を通して分析する。内モンゴルにおけるモンゴル民族の教育問題について論述した研究は、近年多くあげられている。都市部、農村地域や半牧半農地域の現状を取り上げたものが中心で、牧畜地域の実態を扱ったものは少ない。そこで、牧畜地域における状況をスクープして分析する必要があると思う。近年は、牧畜地域において自然環境の保護の名目で「生態移民」「禁牧」など様々な政策が実施されている。さらに、資源開発が急ピッチにすすめられ、牧畜民の生活基盤そのものが危惧されている。そのような背景での牧民の子どもの教育問題、進学状況を明白にすることは、これからの牧畜地域の発展、牧民の生活の健全なあり方を考える上で必要な要素の一つであると考えられる。そこで、内モンゴルのウジムチン地域の実態を取り上げることにする。

ウジムチン地域は、内モンゴルの中中部にあるシリゴル盟 (Šili-yin γool aimag) の東部に位置する (図 1)。ウジムチン地域は西ウジムチン旗 (Barayun üjümüčin qošiγu) と東ウジムチン旗 (Jegün üjümüčin qošiγu) に分かれている。ウジムチン地域は典型的な草原地帯で、牧畜業が盛んである。西ウジムチン旗政府¹によれば、総人口は 72,376 人、そのうちモンゴル民族の人口は 49,215 人で 68%を占めている。残りの 32%は漢族、回族、満州族、ダウール族、朝鮮族が占める。総人口のなかで牧畜民の人口は 39,914 人で 55.1%を占め、牧民が過半をしめていることになる。

西ウジムチン旗（以下、西ウジムチン）の学校の状況は、2008 年現在、西ウジムチンの X 局のデータでは、幼稚園が 5 園、小学校が 4 校、中学校が 2 校、高等学校が 1 校、合計で 12 校で

¹ <http://www.xiwuqi.com/>を参照 (2009 年 10 月 14 日)。

ある。そのうちモンゴル民族小学校は 2 校、中学校が 1 校である。ただし、高等学校の場合は統一された学校でモンゴル語と漢語でクラスが分かれている。

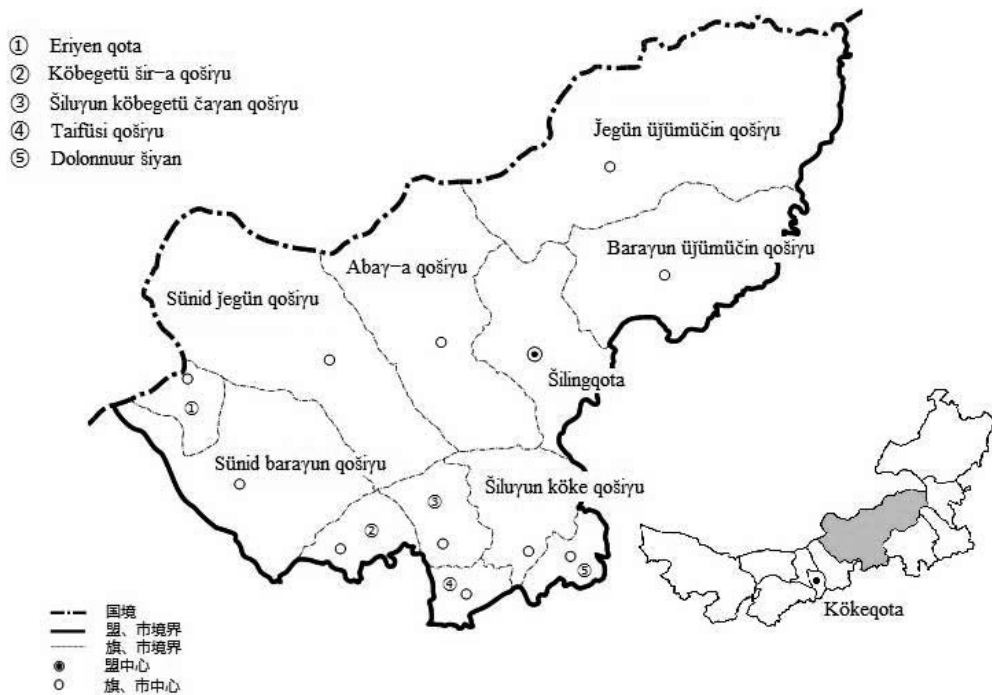


図 1：シリンドル盟

(<http://www.xwqxw.net> を参考に作成)

確かに内モンゴルの民族教育は、学校教育において民族学校数や各級の在校生数などをみる限り大きな発展を達成したといえる。しかし、2000 年からシリンドル盟全土に行われた行政体制改革²に伴い、牧畜地域においては様々な面で変化を余儀なくされている。牧畜地域の学校統廃合はその一例であり、過度統合というべき状況にある。それによって、牧畜民生活と彼らの子弟は進学・通学に大きな試練を受け、多くの問題を抱えていることがあげられている（ムンクバト 2011）。

ハス額爾敦（2005）は「民族教育の問題をハード面ではなくソフト面で見るときどうなるだろう」と提言している。つまり、民族学生の卒業総数を見る時に、質的な問題をも考慮すべきであるという。

² 当時の行政区画調整し、行政体制の改革を施したという。「体制改革」といわれている。

ここでいう民族教育の質とは、少数民族の学生が自民族の「母語」による学校教育が受けられるかどうかという問題である。少数民族にとって母語で教育を受けられるということはとても意義のあることである。モンゴル民族にとって、モンゴル語はコミュニケーションのためだけではなく、モンゴル・アイデンティティのシンボルでもある (Humphrey1999:23)。しかしながら、漢族学校に通う児童生徒は、習う言語が漢語、教科書が漢字、友達が漢人であるため、子どもたちの考えや受ける文化と風習も変わっていき、モンゴル人としてのアイデンティティが次第に薄れていくと危惧されている (Erdemtü,R2005:124)。

では、牧畜地域のモンゴル民族の児童生徒が母語による教育が受けられているか、その現状について現地の人々の意見に耳を傾けてみよう。

2 モンゴル人児童生徒の学校選択について

2.1 民族学生の入学入園についての関係者の証言

(1)

I 氏 (西ウジムチン在住の定年退職教員、70 代、女性、2009 年 9 月実施調査から)。

「モンゴル人子児童が漢族学校に通わせているケースが多くなっている。モンゴル語で習ってもモンゴル語を使う場所があまりにも少ないとされ、多くの保護者たちは子どもを漢語で習わせている。数少ない牧民や都会に住む人だけが子どもたちをモンゴル族の民族学校に通わせているのが現状である。今は、児童が幼稚園に入る前の時点ですでに漢語で話すようになってきている。ある保護者の話のだが、孫をモンゴル族幼稚園に通わせたら、今まで活発でいた孫が言葉を途絶え、座ったところから動きもしないようになり、他の児童とのやり取りがなくなってしまったという。それで、親が仕方なく漢族の幼稚園に行かせたら孫が活発になり、その変身ぶりに驚いていた。」

(2)

E 氏 (フフホト市在住大学教員、40 代、男性、2010 年 1 月実施調査から)。「90 年代には、モンゴル人の親たちが子どもを中国の名門学校に進学させ、いい就職先を

得ることを目的に、子どもを漢族学校に通わせていた。この数年間は、当時の子どもたちが大学に進学する時期となった。しかし、親の思い通りに区外（内モンゴル自治区以外）の大学に進学した学生は、親の祈願とは裏腹にごくわずかだった。その要因は、漢語で学習を行っていても、中国における進学競争倍率はあまりにも大きかったからである。この悲惨な事実を耳にした今のモンゴル人の親たちは、子どもをモンゴル民の幼稚園に通わせ始めている。フフホト市ではモンゴル民族の幼稚園の開校日の前夜から長蛇の列ができたことがあった。今でも入園ができなくて順番待ち状態である」。

(3)

M氏（西ウジムチン在住幼稚園園長、40代、女性、2011年9月実施調査から）がいうには、「A幼稚園では、2008年から入園児が多くなってきた。西ウジムチンの旗政府から新しい保育園をつくることになった。一方、個人が運営する幼稚園も毎年増えている。A幼稚園はモンゴル族と漢民族を問わずに募集し、モンゴル語クラス、漢語クラスに分けている。モンゴル語クラス、漢語クラスのどのクラスに通わせるかは親が決めている。政府から児童の生活補助金を出している。保育費と管理費を合わせて70元（約千円）で、40%をシリングル盟政府から、60%を西ウジムチン旗政府から出している。それも入園児が増えた要因だと思う。本来は、牧民の児童は幼稚園に通わず、就学年齢になれば直接小学校に入っていたことが多かった。政府からは牧民を都市に移住することが奨励され、さらに、入園児に補助金を出しているために、保護者たちの子どもを保育園に通わせる意識も高まったと思う。しかし、問題点として浮上することは、①A保育園は300人の子どもしか受け入れないが、それをはるかに超えた700名（2011年現在）の児童が在籍している。②子どもたちが入園できない状態で、来年9月に入園する子どもが今年の9月から志願している。」

I氏が言うとおりに、モンゴル人児童を取り巻く言語環境はすでに変わっていて、児童が入園時にはすでに漢語ができるようになり、漢語が有利になっていることが読み取れる。また、都市部で親たち

の強い願望によって進学する学校が選択されものの、時代変化にその選択があおられていることが、保護者たちの反応から感じられる。モンゴル語による教育を子どもにさせようという動きもあらわになっていることが E 氏の話から分かる。牧畜地域の就学前教育が最近になって着実に起動していることが M 氏の話から読みとれる。しかし、その体制がいまだに整っていないこともまた指摘できる。次は、牧畜地域におけるその人数と割合を把握したい。

2.2 漢語による教育を受けるモンゴル人児童生徒

内モンゴル全土ではモンゴル人子どもたちが漢族学校に通っていることは先行研究でも指摘されてきた(岡本雅享 1999; 哈斯額爾敦 2005; フレルバートル 1997)。特に都市部では、漢族学校に通う少数民族の子どもたちが年々増えている。しかし、牧畜地域では何人のモンゴル人の学生がどれぐらの割合で漢語による教育を受けているか、その具体的な数値は余り挙げられていない。

内モンゴルにおける小中高校には民族学校と漢族学校があり、さらに、民族学校は教育言語の違いから甲・乙式³に区別されている。民族学校の小中高校では「モンゴル語を教育言語として漢語を一教科科目として学習するタイプ」を甲学校(班)と呼び、「漢語を教授言語とし、モンゴル語を一教科科目として学習するタイプ」を乙学校(班)と呼んでいる。甲・乙式学校(班)の根本的な違いは、教育言語が異なることである。

甲式学校(班)ではモンゴル語が教育言語であり、それに漢語と英語の二つの教科科目を加えて学習する。この場合の教科書は民族学校と同じもので、内モンゴルで出版された教科書を使う。漢語は少数民族対象の教科書を使い、英語も単語や文法項目などについてモンゴル語で書かれた教科書を使う。乙式学校(班)では漢語が教育言語であり、更にモンゴル語と英語を習う。G 氏(フフホト氏在住小学校学長、50代、男性、2010年1月実施調査から)がいうには、この場合、モンゴル語の教科書だけがモンゴル語で書かれたもので、民族学校用の教科書より難易度が低いものである。モンゴル語科目の試験も「乙式試験」があり、他の科目は全て漢族学校のものを使っているという。民族学生は民族学校に通うのが一般的であるが、幼い頃から民族語に余り触れなかった児童生徒は、漢語で教育を受けることを余儀なくされている。しかし、牧畜地域ではほとんど甲式学校があつて、乙式の学

³ 甲と乙は、モンゴル語ではそれぞれ *kūike* (フフ=甲) と *kūkegčīn* (フフグチン=乙) という。

校はなく（西ウジムチンにはない）、子どもたちは直接漢族学校に通い、学校教育の場ではモンゴル語に触れる機会がない。次は、牧畜地域のその実態を考察してみよう。

2.3 西ウジムチンにおける民族学生の学校選択

表 1 2007~2008 年度西ウジムチンにおける学生統計

- 民族別と教育言語別にみる -

単位：人

区分	学生総数	民族別			教育言語別		非母語教授
		モンゴル族	漢族	その他 ⁴	モンゴル語	漢語	モンゴル人
幼稚園	651	399	245	7	205	446	48.6(%)
小学校	4,430	3,141	1,227	62	2,139	2,291	31.9(%)
中学校	1,799	1,521	263	15	1,295	504	14.9(%)
高等学校	1,319	1,052	247	20	914	405	13.1(%)
合計	8,199	6,113	1,982	104	4,553	3,646	25.5(%)

(出典：「2007~2008 年度西ウジムチンの X 局の統計」をもとに作成)

表 1 は、「西ウジムチンの 2007~2008 年度」の 5 つの幼稚園、小中高校 7 校の各学校における学生総数、教育言語別と民族別の学生数を示したものである。表の中の「民族別」と「教育言語別」の項目を比較してみる。小学校の場合は、西ウジムチンにモンゴル族小学校が 2 校、漢族小学校が 2 校ある。モンゴル人生徒は 3,141 人、そのうちモンゴル語で教育を受けている生徒数 2,139 人である。したがって、小学校の段階で漢語による教育を受けているモンゴル人児童の数は、差し引き 1,002 人となる。したがって小学校の段階でその数は生徒総数の 31.9%を占めていることが分かる。

また、中学校の場合は、モンゴル族中学校が 1 校、漢族中学校が 1 校ある。中学校の段階ではモンゴル人学生は 1,521 人、そのうちモンゴル語で教育を受けている学生数 1,295 人である。その差は 226 人となる。したがって中学校段階ではモンゴル人学生の総数の約 14.9%を占めていることが分か

⁴ その他には回族、満州族、ダウール族が含まれる。

る。表 1 の「非母語教授モンゴル人」の項目において、2008 年現在の西ウジムチン旗における漢語で教育を受けているモンゴル人学生数は、モンゴル族人の学生総数の中で、それぞれ、幼稚園 48.6%、小学校 31.9%、中学校 14.9%、高校 13.1%の割合をそれぞれ占めている。合計からみても、25.5%をしめている。

では、幼稚園から小中高校の各段階での漢族学校（モンゴル族学校を除く）それぞれに在籍する児童生徒の中にモンゴル族出身の学生がどれくらいの比率をしめるであろうか。各学校の漢族学生数とモンゴル人学生数及びその他の民族（回族、満州族、ダウール族）の比率から見る。図 2 は、西ウジムチンにおける 9 つの漢族学校（その中、幼稚園が 5 つ）及び漢語クラスに通うモンゴル人児童生徒の割合を示したものである。回族、満州族、ダウール族も一定の割合をしめていることがわかる。

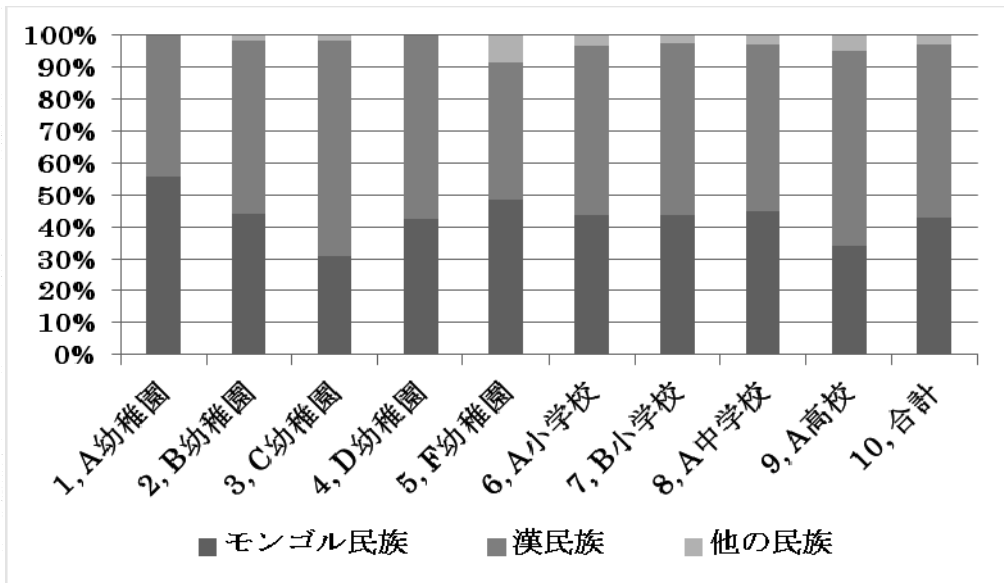


図 2 漢族学校に教育を受ける各民族学生数の割合

(西ウジムチン旗 X 局の統計「少数民族学生統計表 (2007~2008 年)」を元に作成)

図 2 の A 幼稚園と A 高校は、総合学校でモンゴル族と漢族が同じ学校に通い、クラスと教育言語がわかれている。漢語学校（クラス）で漢語による教育を受けているモンゴル人の子どもたちは、それぞれの学校で 3~5 割を占めていることが表からわかる。

例えば、A 小学校では 1.248 人の学生が在籍する。その内訳は、漢族が 664 人、モンゴル族が 546

人、回族が 25 人、満州族 8 人、ダウール族が 5 人である。モンゴル人学生は全校生の 43.8%の割合をしめている。合計から見ても、2008 年現在、西ウジムチンにおいて漢族学校（クラス）に 3,645 人の学生が在籍している。そのうちモンゴル人児童生徒は 1,559 人で、43%をしめている。つまり、1,559 人のモンゴル人児童が漢族学校に在籍し、漢語で教育を受けていることになる。では、その推移を見てみることにする。

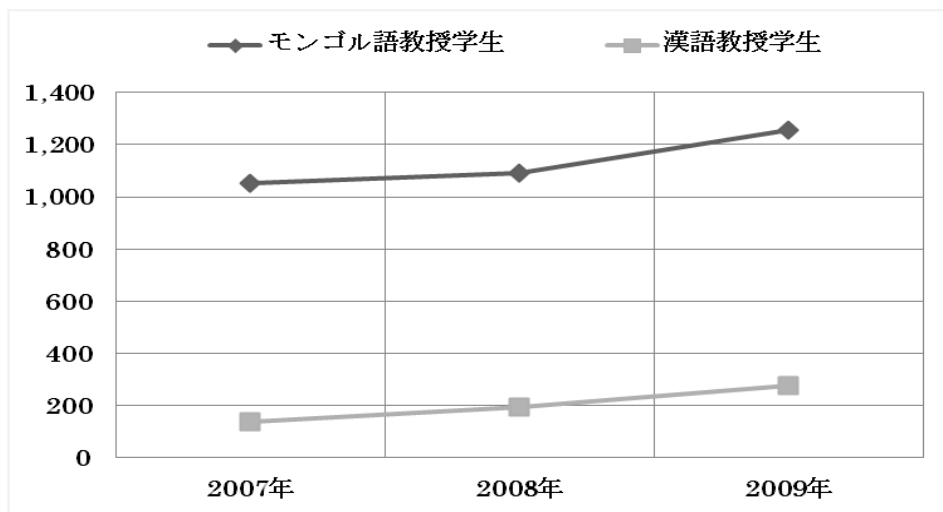


図 3 西ウジムチン旗の A 高校のモンゴル人学生の推移

(出典：西ウジムチン旗 X 局の統計をもとに作成)

図 3 は、西ウジムチンにおける A 高校に在籍しているモンゴル人学生をモンゴル語と漢語による教育言語別に、2007 年、2008 年、2009 年の 3 年間の変動を見せたものである。A 高校は西ウジムチンの唯一の高校で、モンゴル民族、漢民族及びその他の民族が一緒に通う学校で、モンゴル語と漢語のクラスに分けられている。この学校のような例は内モンゴルでは多くみられる。西ウジムチンの高校に在籍するモンゴル人学生総数は 2007 年から順次に 1,319 人、1,459 人、1,462 人と右型上がりになっている。その一方、漢語教授モンゴル人学生も 138 人、193 人、277 人と年々増えていることがわかる。モンゴル民族学生の中で漢語教育を受ける学生の割合からみても 10.5%、13.2%、18.9% と増加しているのがわかる。

3 まとめ

モンゴル人児童生徒が母語であるモンゴル語による教育を受けず、幼稚園の時から漢語で教育を受けている。という現象は、先行研究においても多々指摘されている。モンゴル人の児童生徒が幼いころから漢語の世界に溶け込むことは、モンゴル族の言語・文化の発展に様々な影響を与えることになる。現地の人々の意見からも、モンゴル子どもたちを取り巻く言語環境がすでに変わって、児童が入園時にすでに漢語ができるようになり、漢語が有利になっていることが読み取れる。それによって、教授言語もモンゴル語から漢語にシフトされていると言える。

また、親たちの強い願望によって入学・進学する学校が選択されものの、時代の変化にその選択があらわれている。都市部においてもモンゴル語による教育を子どもにさせようという動きもあらわになっていることが分かる。牧畜地域の就学前教育は最近になって着実に進展している。地方政府から補助金出すなど児童を入園、進学できるように努力していることがみられるが、幼稚園の数や広さによって全員は入園できない状況である。都市部にしても、牧畜地域にしても、その体制がいまだに整っていないことが指摘できる。

さらに、牧畜地域において一体どれくらいの学生が漢語で教育を受けているか、その割合や数字がどういった傾向にあるかを調査した結果、西ウジムチンでは、表 1 に示した通り、2008 年の時点では、モンゴル人の児童生徒のうち、漢語による教育を受けている（あるいは漢語学校に在籍中の）児童生徒の幼稚園、小中高校の各段階でのモンゴル人学生総数に対する割合は、高等学校で 13.1%、中学校で 14.9%、小学校で 31.9%、幼稚園で 48.6%の割合をそれぞれ占めている。図 3 にもしめている通り、高校に在籍するモンゴル人学生数が増えるにつれて、漢語教授学生も 2007 年、2008 年、2009 年それぞれに 138 人、193 人、277 人と年々増加の傾向にあることがわかる。モンゴル人学生が漢語学校に通うという問題が牧畜地域にも広がっているといえる。

参考文献：

愛知大学現代中国学会（2004）

「民族自治における内モンゴル自治区」『中国 21』Vol.19.pp.5-36.愛知大学現代中国学会
Erdeemtü,R (2005)

Unug-a. Öbür mongyul-un suyul-un keblel-ün qoriy-a.
(R・エルドムト 2005.『心路』.内モンゴル教育出版社)

岡本雅享（1999）

『中国の少数民族教育と言語政策』社会評論社

Gürjeb(2008)

Eril sübegčilel-ün jam. Öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriy-a.
(グルジェブ 2008.『教育反思と研究』.内モンゴル人民出版社)

———（2009）

Ĵegüdüń dü sümeĴekü on Ĵil. Öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriy-a.
(グルジェブ 2009.『夢幻歲月』.内モンゴル人民出版社)

Sainbayar,G(2009).

Qauli・Kele・Amidural. Öbür mongyul-un suyul-un keblel-ün qoriy-a.
(G・サインバヤ 2009.『法律・言語・生活』.内モンゴル文化出版社)

スチンゴワ（2007）

「現代中国における少数民族教育に関する実証的研究－モンゴル民族中学校の実態調査から－」『言語・地域文化研究』13号. pp227-247.

ハス額尔敦（2005）

「中国少数民族地域の民族教育政策と民族教育の問題」『多元文化』第5号.pp.265-280.名古屋大学

Humphrey, C and Sneath, D (1999)

The End of Nomadism ? Duke University Press

Kürelbayatur(2009).

Mongyul kelen-ü ami aqul. Öbür mongyul-un arad-un keblel-ün qoriy-a.
(フレルバートル 2009.『モンゴル語の生態』.内モンゴル人民出版社)

フレルバートル（1997）

「内モンゴル自治区の民族教育をめぐる諸問題」『言語・国家、そして権力』田中克彦著.pp. 91-105.
新世社

ムンクバト N.B.（2011）

「内モンゴル自治区におけるモンゴル民族教育について－西ウジムチン旗の民族学校の統廃合からみる」『千葉大学ユーラシア言語文化論集』13号. pp67-75.

ムンクバト N.B. (2012)

「内モンゴル自治区における民族学校の言語教育についてーモンゴル族学校、漢族学校、日本の小学校と在日朝鮮人学校のカリキュラム比較からの一考察ー」千葉大学大学院人文社会科学研究所プロジェクト報告書『ユーラシアの多言語社会と言語政策』第 239 集,pp5-20.

【URL】

<http://www.xiwuqi.com> (西ウジムチン旗人民政府)

<http://www.xwqxw.net> (西ウジムチン旗ニュース)

(むんくばと N.B. 千葉大学人文社会科学研究所)

**Minority Education in a Pastoral Area of
Inner Mongolia Autonomous Region;**
A View on the School Choice of Mongolian Minority Students

Monkbat N.B.

Summary :

This paper is a report about research on issues pertaining to the minority education of the Inner Mongolia Autonomous Region, focusing on Mongolian students and Mongolian minority schools in the pastoral area known as West Ujimchin Banner. ‘Which kind of language are they going to study, Mongolian or Chinese?’ I analyzed the number of Mongolian students in Chinese schools, who study in Chinese. I interviewed some teachers at Mongolian schools in the region. There are 5 preschools, 2 elementary schools, 1 junior high school and 1 high school whose medium language is Chinese. There are 3,645 students registered in total. Additionally, 1,559 (about 43%) were Mongolian students in one academic year (2008). More than 50% of students in some preschools are Mongolian students. Half of the students in Chinese schools who study in Chinese are also Mongolian. The ratio of Mongolian students who study in Chinese is growing. However so many Mongolian students reject studying in Mongolian school that, the Mongolian minority education is being damaged, and will become even damaged in the future.